

2022年11月13日(日)

中国新聞 SELECT 掲載

隊次：2013-1 次隊

氏名：松本 圭太さん

派遣国：インドネシア

職種：陸上競技



「これで今月の学費もなんとか払えそうです」。国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊として私が陸上競技を指導したインドネシアで、高校生の教え子が大会で入賞した際に話した言葉だ。インドネシアの

JICA
だより



インドネシア
(2013~15年派遣)

松本圭太さん(36)

尾道市

陸上競技大会は日本と違って入賞すると賞金が出る。その教え子は中学を卒業後、1度働きに出たため、同級生より年齢が二つ上だった。昼は学校、放課後は仕事だったので練習への参加は朝練のみ。朝からがむしゃらに走っていた。

競技指導 考え方に変化

「結果よりも、目標を達成させるために努力する過程の大切さを伝えたい」と意気込んでいた私は、賞金



筆者が陸上競技を教えたインドネシアの子どもたち

うな事例に出合ううち、その考えは変わっていった。それから、教え子と一緒に、結果を追い求めるボランティア活動を行った。

現在尾道市で輸入食材専門店を経営している。お客さんの大半は造船所などで働く外国人。東南アジアのスパイスや調味料、野菜を中心に約千点の商品を取り扱っている。特に大切にしているのはお客さんの生の声。普段よく使う食材は

もちろん、母国の郷土料理を作るのに必要な調味料、仕事から帰ってすぐ食べられる冷凍食品、スパイスをすりつぶす石臼など、要望をもとに仕入れている。

母国に暮らす奥さんとのやりとりなのか、テレビ電話越しにあれを買えこれを買え、と指示されている。「作り方はまた後で教えるからね」。そんなやりとりを見てとてもほほえましくなる。母国に家族を残し、言葉も文化も気候も違う日本で頑張っている。せめて食事だけでも母国の味や家庭の味を感じてほしい。そのサポートをできる店をお客さんにつくってきたい。